



学校教育講座 石井 僚 准教授



金融教育の心理的効果

キーワード 金融教育/ 社会経済的地位/ 精神的健康/ 金融リテラシー/

どのような研究をなぜ行っているか

—金融教育とは？（金融広報中央委員会より）

金融教育は、お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育である。

—なぜ、金融教育の心理的効果に着目するのか？

これまでの多くの研究で、社会経済的地位 (socioeconomic status; SES) が、精神的健康等、個人の心理に影響を及ぼすことが明らかにされてきました。例えば、貧困状態にある個人は、裕福な個人と比べて、精神的に不健康になりがちなのは、想像に難くありません。そしてこのSESは、親だけでなくその子どもにも影響を及ぼします。

しかしSESは、すぐに変化させることが難しいものです。そこで着目したのが、金融リテラシーという、教育によって向上させられる可能性のあるものです。

—SESと精神的健康の関連を調整する金融リテラシー

金融教育の心理的効果について検討していくにあたって、その基礎的研究を行いました。SESの低い個人の精神的健康は良くありません。その理由の1つは、SESの低さが、「やればできる」という感覚を奪うからです。しかし、SESが低くても、金融に関するリテラシーを持ついれば、「何かできる、できている」と思える可能性があります。そして私たちの行った研究の結果は、SESが低くとも、金融リテラシーが高ければ、抑うつが高くないことを示していました（石井・大山・遠藤, 2020; Figure 1）。

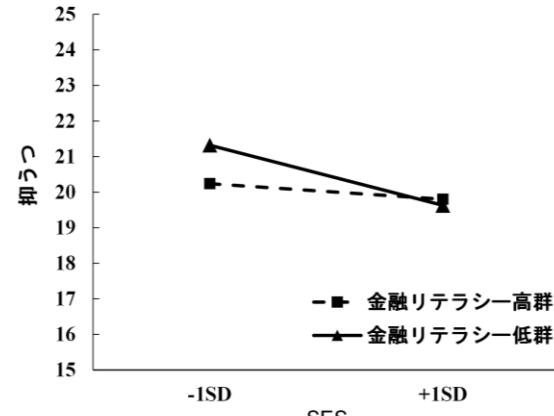


Figure 1. 単純傾斜分析の結果

*石井 僚・大山 拓也・遠藤 秀紀 (2020). 社会経済的地位と抑うつの関連に対する金融リテラシーの調整効果日本心理学会第84回大会

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

現在までに行った研究は、まだ基礎的な研究であり、すぐに応用できるものではないかもしれません。今後、金融リテラシーへの介入を行うことで、実際に心理的な影響がみられるのかについて検討を進めていくことで、金融教育の持つ心理的効果の解明が期待されます。そしてそのような知見は、学校現場でも始まった金融教育を、どのように行なうことが心理的にも効果的なのかについての情報を提供してくれます。

日本の相対的貧困率は決して低くありません。そしてその心理的影響も少なくありません。こうしたSESに由来する心理的な影響の緩和、ひいては貧困問題の解決の糸口を探っていくことにつながると考えられます。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・2019年：教員養成大学設立のための基盤構築プロジェクト（本邦研修）
- ・2018年：総合的な学習の時間—大学研究室訪問（特別講座）
- ・2018年：日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス
- ・2017年：障がい児連続研修会
- ・2016年：岐阜県立多治見北高等学校 研究者・大学院生との懇談会 他

